

田中正造 たなか ちやうぞう 政治家、社会運動家。大正十一年十一月二日下野國  
 生れ、大正二年九月四日歿（二四一―一九三三）。栃木縣議を経て、明治一  
 十二年衆議院議員（連続當選六回）。足尾銅山鑛毒問題を帝國議會へ  
 進及。責を行政としての非難を受けると二十四年辭職して、天皇への直訴  
 を試みた。二十七年谷中村やちゆうむらに移居し、農民と共に廢村を最後まで抵抗  
 し、義人と稱せられる。葬儀に参列した農民五萬餘と曰ふ。

著書「五十七名家語録」（合著・平田膏仙撰、明治二十一年十月十二日  
 平田勝馬刊、鐵華書院）、『殘照』（鈴木一郎編著、昭和二十一年十  
 月二十日一燈書房）、『晩年の自記』（林廣生編題、昭和二十二年五  
 月二十日日本評論社「明治文化叢書」）、『田中正造全集』全十九卷  
 別巻一（田中正造全集纂集会編、昭和五十一年七月五日―五十五年八  
 月八日海濱書店）等。

文献、木下尚江著『田中正造翁』（大正十年八月十日新潮社）、堀田  
 善太郎『祝祖の足尾銅山』（大正十一年十月二十五日社會問題研究  
 會）、大鹿卓著『渡良瀬川』（昭和十六年四月八日中央公論社「新作  
 長篇叢書」。決定版、二十二年六月二十五日大日本雄辯會講談社）、  
 上村孝次雄著『このこもあつた君の父國のつちなれば』（昭和二十二年十  
 二月十日啓文社）、大鹿卓著『谷中村事件』（昭和二十二年九月二十  
 五日大日本雄弁會講談社。再刊『谷中村事件』ある野人の記録・田中



正造伝』石牟礼道子解題、四十七年四月十五日新  
 京社）、同『渡良瀬川』（宇井純解説、昭和四十  
 五年十一月二十日講談社）、森山龍著『毒流す悪  
 魔の血』田中正造、血涙の生涯』（昭和四十六年十一月一日日本

イエス・キリスト教団救済栄光教会出版部）、扶原進著『口伝尾鉤毒草  
件』(昭和四十七年七月十日群鶴・上毛新聞社)、林竹、著『田中正  
造―その生と戦い』「根本義」(昭和四十九年六月二十五日)二月  
社)等。